

あたりまえの日常が、
なによりも愛おしい

青森県の伝説の人物、花田ミキ。
看護に命をかけた波乱万丈の生き様を映画化
「保健と看護」に命をささげた生涯を描く！

主演を務めるのは青森県出身で、NHK連続テレビ小説「ブギウギ」での演技が記憶に新しい木野花。また花田ミキと心を通わせるシングルマザー役にお茶の間で大人気の青森県出身タレント王林が扮し、実力派舞台女優として名を馳せる伊勢佳世が、若かりし頃の花田ミキを凜とした演技で見事に演じ切った。

監督を務めたのは、これまで実在の人物を題材に映画製作を続けてきた青森県出身の名匠・五十嵐匠。戦争の悲劇、命を守る保健師の原点、そして「この時代を生きている」ことの意味。人生の喜怒哀楽、あらゆるものが詰まった、観るものの心をわしづかみにする感動作が誕生した。

ただ生きていてくれたらいい。

究極の優しさは相手の命を想い続けること

シングルマザーとして息子リクの子育てに追われる日々をおくっていたちさと（王林）は、仕事先のスーパーの常連である花田ミキ（木野花）と出会う。人嫌いとして近所でも有名であった花田だが、ちさとやリクとの何気ない日常を過ごすうちに、人のぬくもりに触れ、自然と心を通わせていく。花田は自らがかつて看護師であったことをちさとに告白し、当時の社会情勢や今日までどのような生き方をしてきたのかについて静かに語り始める。

花田の若い頃（伊勢佳世）の姿は、八戸赤十字病院で集団感染が起きたポリオの治療法を広め、看護に対して誰よりも懸命に向き合い、生き抜いた姿だった。ちあとは、幼い頃に亡くなった自らの母親も看護師であったことから、花田に対して親近感を抱くようになっていったのだが……

新しい時代に、新しい景色を。
協賛: LINKMORE
リンクメディア 株式会社 グループ



Rotary
国際ロータリー
会長メッセージ

よいことの
ために
手を取りあおう

2025-26年度国際ロータリー会長メッセージ「よいことのために手を取りあおう」は、政治、地理、イデオロギーでますます分断されている世界において、結束する力となるようロータリー会員に呼びかけるものです。